



健康福祉・医療委員会資料  
令和6年5月30日  
健康福祉局

# 横浜市敬老特別乗車証に関する分析結果について

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

## 目次

### 1 趣旨

### 2 利用実績と将来推計

- (1) 年齢別の1人あたり月平均利用回数
- (2) 年齢別人口推計
- (3) 総利用回数の推計
- (4) 年間利用回数別人数分布

### 3 地域の状況

- (1) 区ごとの交付率
- (2) 公共交通圏域

### 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

- (1) 敬老パスの保有の有無と外出頻度
- (2) 敬老パスの保有の有無と要介護認定の関係
- (3) 高齢者の外出頻度
- (4) フレイル状態にある高齢者の割合
- (5) 要支援・要介護認定者の状況

### 5 まとめ

(新たな制度の構築に向けて)

## 1 趣旨

横浜市敬老特別乗車証（以下、「敬老パス」）については、制度のあり方を検討するため、令和4年10月からIC化により利用状況を把握してきました。

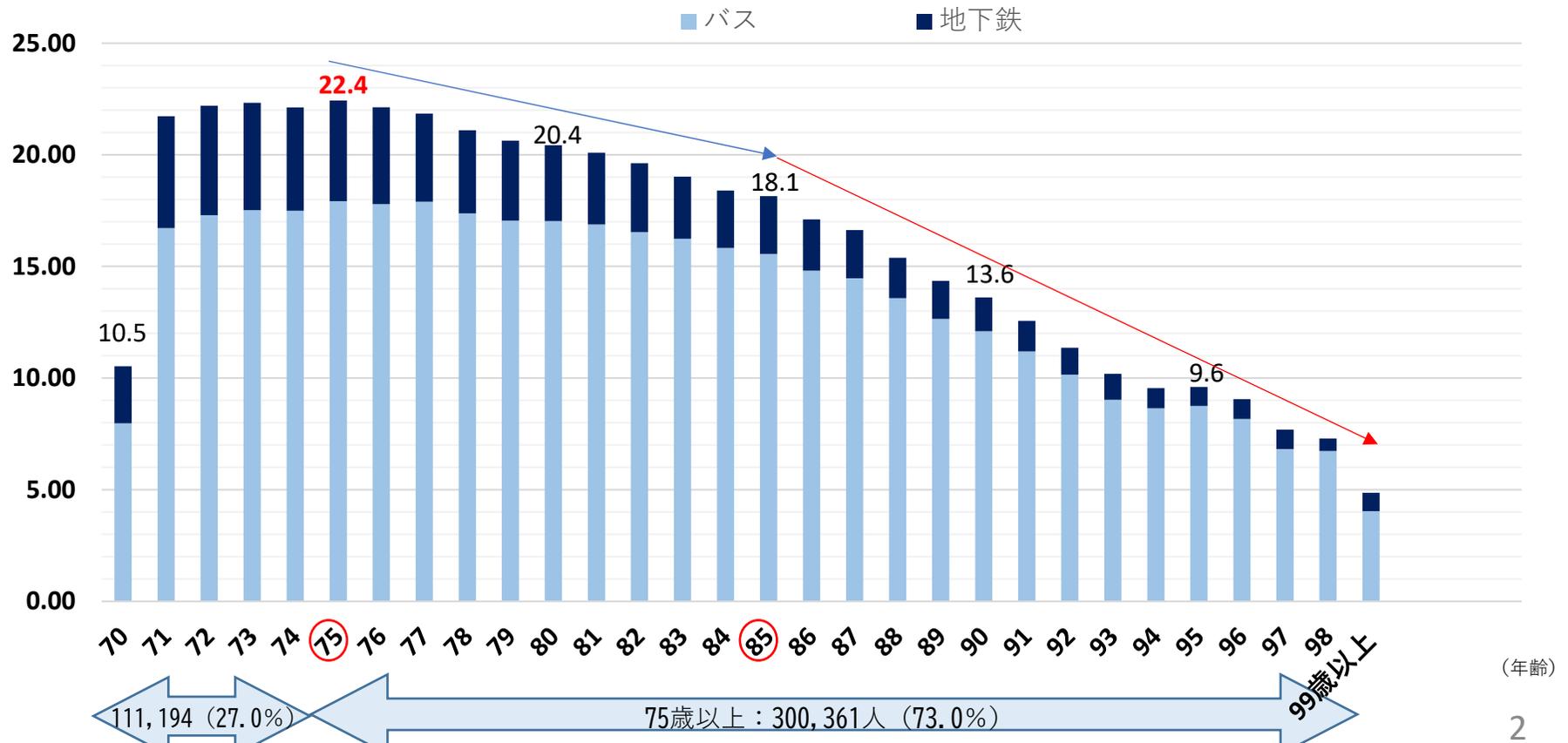
把握したデータ等を基に敬老パスの利用実績等を分析しましたので、報告します。

## 2 利用実績と将来推計

### (1) 年齢別の1人あたり月平均利用回数 (令和4年10月～令和5年9月)

- 75歳をピークに年齢が高くなるほど、利用回数が減少している
- 85歳以降は、減少の割合が高くなっている

(単位：回/月)



※敬老パス利用データをもとに分析

※70歳の利用者は、誕生日を迎えてからの利用者を多く含むため月平均利用回数が少ない

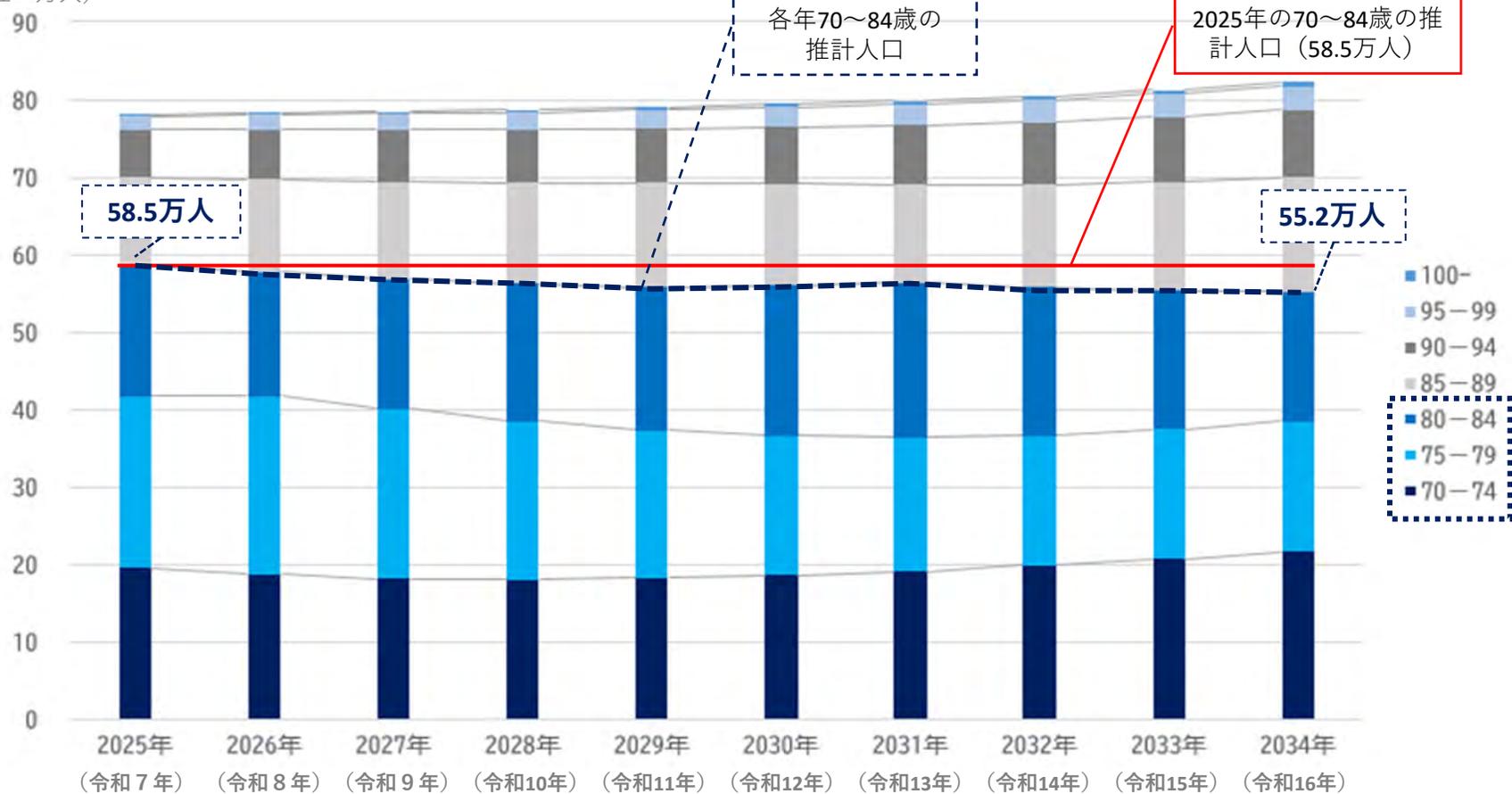
(年齢)

## 2 利用実績と将来推計

### (2) 年齢別人口推計

- 敬老パスの対象者である70歳以上の人口は増加するが、敬老パスの利用回数が多い70歳～84歳の人口は減少する見込み

(単位：万人)



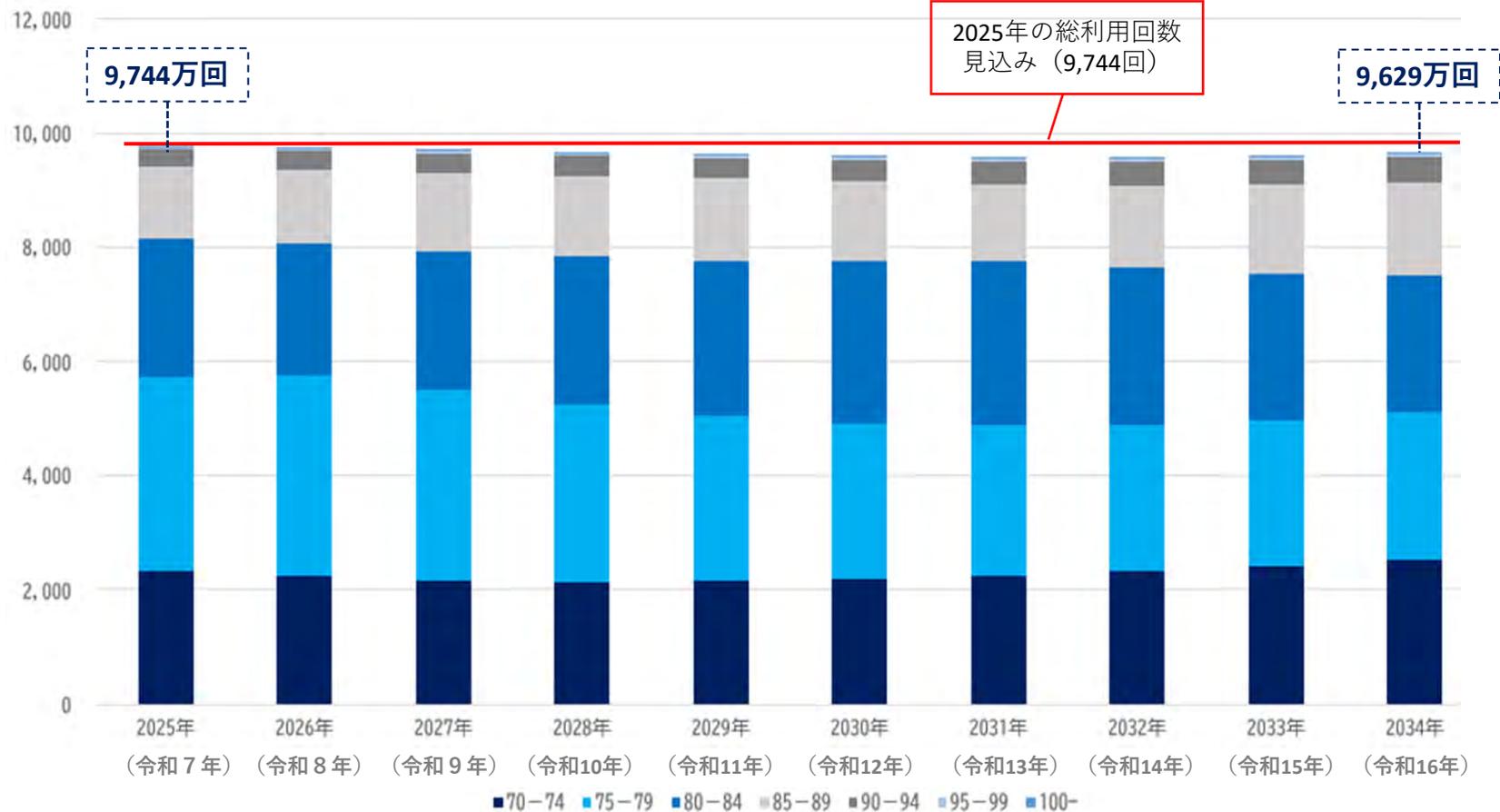
出典：横浜市将来人口推計(中位推計)

## 2 利用実績と将来推計

### (3) 総利用回数の推計

- 敬老パスの利用回数の多い70歳～84歳の人口が減少するため、年間の総利用回数は減少または同程度で推移する見込み

(単位：万回)



※年齢別平均利用回数(令和4年10月～令和5年9月)に、横浜市将来人口推計(中位推計)と令和4年度の年齢別交付率を用いて推計

## 2 利用実績と将来推計

### (4) 年間利用回数別人数分布 (令和4年10月～令和5年9月)

- 利用回数の多い上位12%の利用者の利用回数が総利用回数の41%を占めている

#### 年間利用回数別人数分布と総利用回数に占める割合

年間利用回数	人数	人数割合	利用回数	利用回数割合
0回	16,550人	4.0%	0回	0%
1～60回	99,926人	24.3%	2,732,956回	2.8%
61～120回	65,772人	<b>87.8%</b>	5,842,042回	<b>59.0%</b>
121～240回	85,559人	20.8%	14,975,813回	15.5%
241～520回	93,636人	22.8%	33,421,286回	34.6%
521～730回	27,885人	<b>12.2%</b>	17,056,878回	<b>41.0%</b>
731～5,034回	22,227人	5.4%	22,610,254回	23.4%

※敬老パス利用データをもとに分析

### 3 地域の状況

#### (1) 区ごとの交付率 (令和5年9月末時点)

○ 敬老パスの交付率は区ごとに大きく異なっている

順位	区名	交付率
1	港南区	65.22%
2	磯子区	57.93%
3	戸塚区	57.23%
4	南区	57.17%
5	都筑区	55.90%
6	栄区	55.77%
7	保土ヶ谷区	53.90%
8	金沢区	53.45%
9	緑区	52.13%

順位	区名	交付率
10	中区	50.55%
11	西区	49.14%
12	泉区	48.98%
13	神奈川区	47.94%
14	青葉区	47.36%
15	港北区	46.78%
16	旭区	45.35%
17	鶴見区	43.92%
18	瀬谷区	36.81%

※太字:地下鉄の駅がある区 ※死亡・転出を含む交付率

※敬老パス交付者データをもとに分析

### 3 地域の状況

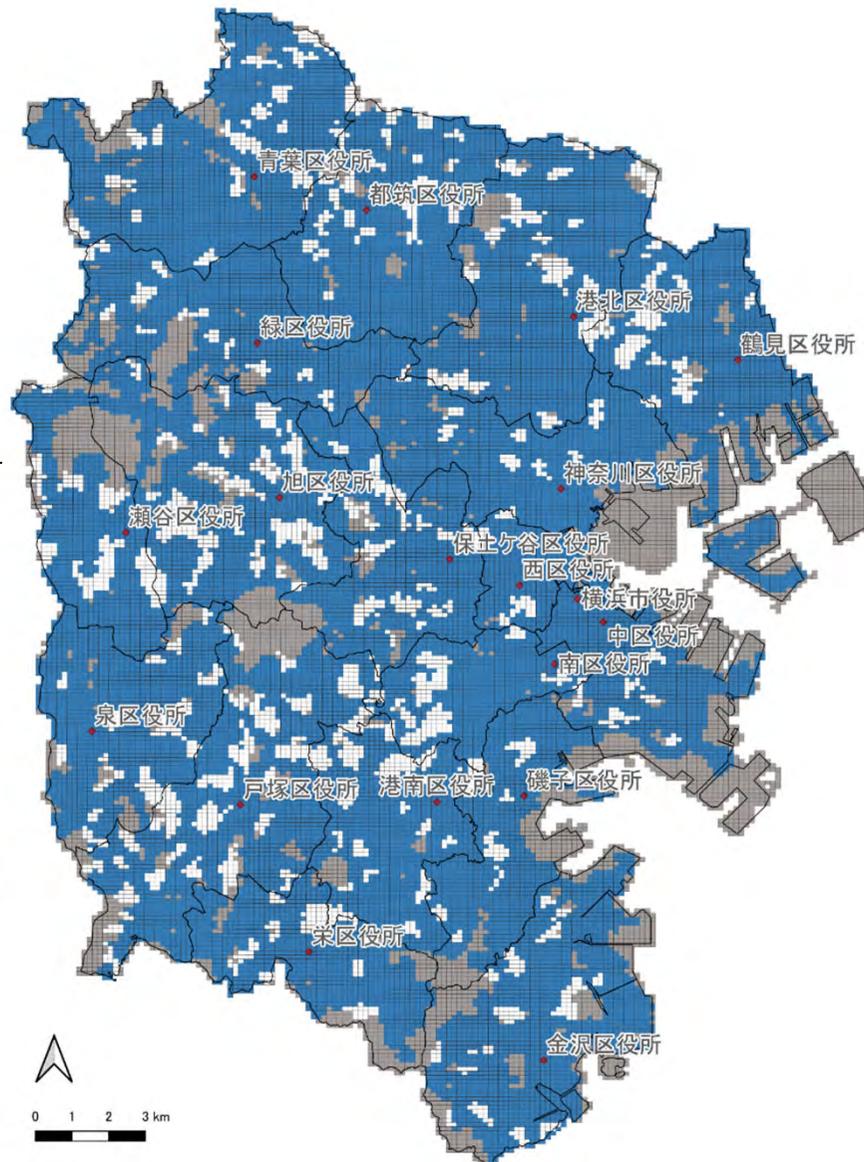
#### (2) 公共交通圏域 (令和6年1月末時点)

○ 鉄道駅及びバス停から道路のネットワークや勾配を考慮して公共交通圏域を分析した結果、市域の大部分で公共交通のアクセスが確保されているが、市内各地に駅やバス停から離れたエリアが生じている

※公共交通圏域の算出条件  
道路距離で鉄道駅800m、バス停300mのいずれかに含まれている地域  
・勾配に応じて800m、300mの距離を短縮補正  
・勾配が12%を超える道路はアクセス経路とみなさない



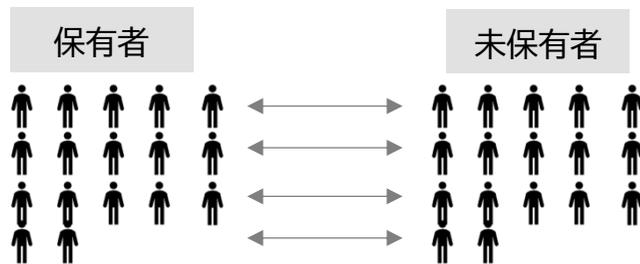
- ◆ 市役所・区役所
- 公共交通圏域
- 公共交通圏域外
- 非住宅系土地利用



## 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

### (1) 敬老パスの保有の有無と外出頻度

- 令和4年度高齢者実態調査のデータをもとに、敬老パスの保有の有無と外出頻度を分析した結果、敬老パスを保有する方は、保有していない方に比べて外出頻度が高い傾向がみられる



敬老パスの保有	毎日1時間以上の外出有の割合
敬老パス保有者	51.50%
敬老パス未保有者	40.72%

約1.2倍



【年齢・性別・居住地域・世帯構成・住居所有・所得・公共交通機関までの距離・車保有・健康状態・介護予防意欲】の回答の傾向をスコア化し、最も似た人同士を1対1でマッチングさせて比較する統計手法（傾向スコアマッチング）を用いて分析

外出頻度を評価

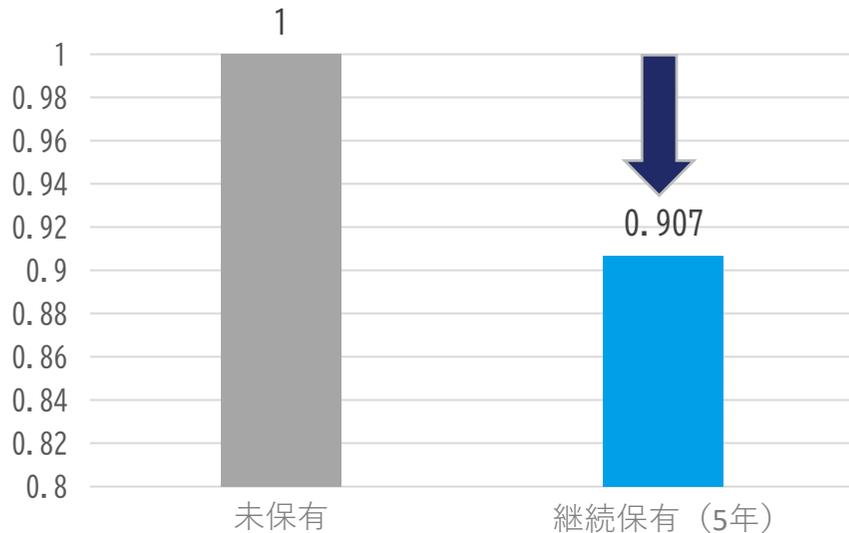
※ 令和4年度高齢者実態調査データをもとに分析

## 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

### (2) 敬老パスの保有の有無と要介護認定の関係

- 過去に敬老パスを5年間継続保有した方は、保有していない方と比較して、その後の5年間で要介護認定を受けることが10%程度少ない傾向がみられる

継続保有(5回)/未保有(0回)による  
要介護/未認定のオッズ比



N (75歳以上で2018年時点要介護認定非該当) = 315,997人  
※資格喪失者(死亡・転出者除く)  
95%信頼区間[0.890, 0.925]  
※(調整項目)性別、年齢、居住区

2018年(平成30年)時点で75歳以上の要介護認定を受けていない方を対象に、それ以前の5年間(2013-17年)敬老パスを保有していた方と保有していない方の、その後の5年間(2019-23年)の新規要介護認定の有無を評価

※敬老パス交付者データ及び介護保険データをもとに分析

## 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

### (3) 高齢者の外出頻度

○ コロナ禍の3年間で高齢者の外出頻度が低下している

2019年（令和元年）と2022年（令和4年）の平日の日中の外出頻度を比較

○65歳以上の方は「ほぼ毎日」が減少しているのに対し「2～3日おき」や「週に1日」などが増加し、外出頻度が低下している。

○要支援の方においても、外出頻度が低下している。

	65歳～				要支援			
	2013	2016	2019	2022	2013	2016	2019	2022
ほぼ毎日	55.5	52.8	54.7	47.2	18.9	21.2	16.3	15.2
1日おき	20.3	19.7	18.7	18.9	14.0	15.5	18.2	12.6
2～3日おき	14.1	15.6	16.1	19.9	31.9	32.0	31.5	31.1
週に1日	4.2	4.2	4.3	6.4	16.5	13.4	16.9	16.3
外出しない週もある	2.9	3.0	2.4	4.3	9.4	9.3	7.9	10.8
外出しない・できない	0.7	2.5	1.1	1.5	5.3	6.5	5.1	9.7

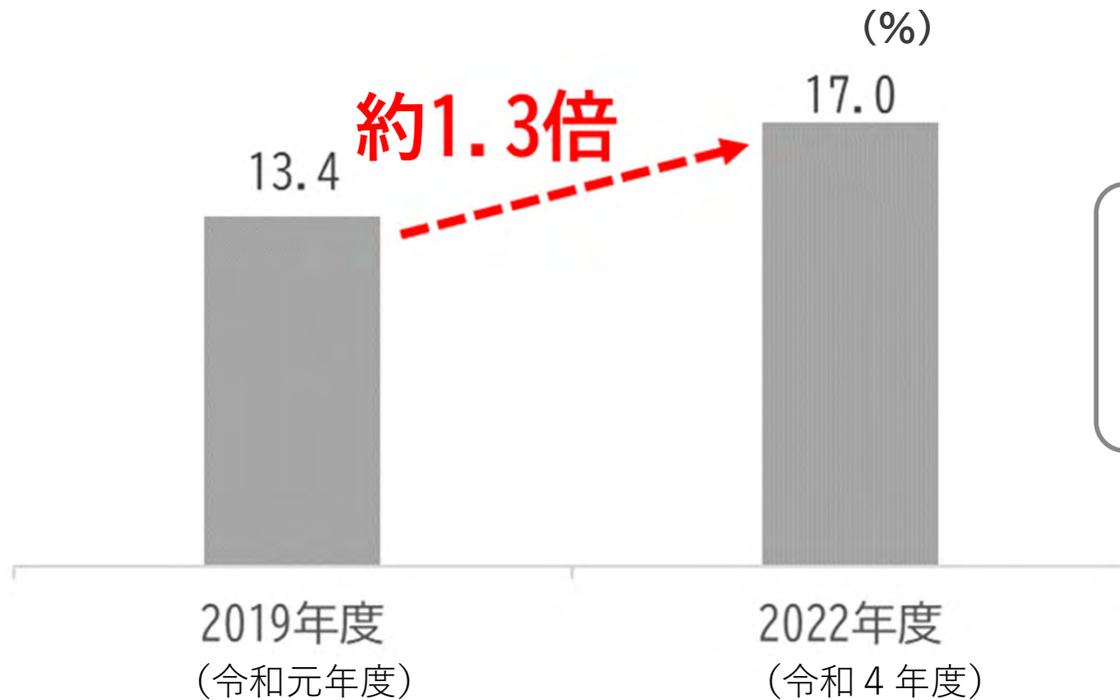
(%)

出典：令和4年度高齢者実態調査

## 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

### (4) フレイル状態にある高齢者の割合

- コロナ禍の3年間でフレイル状態にある高齢者の割合が約1.3倍に増加している



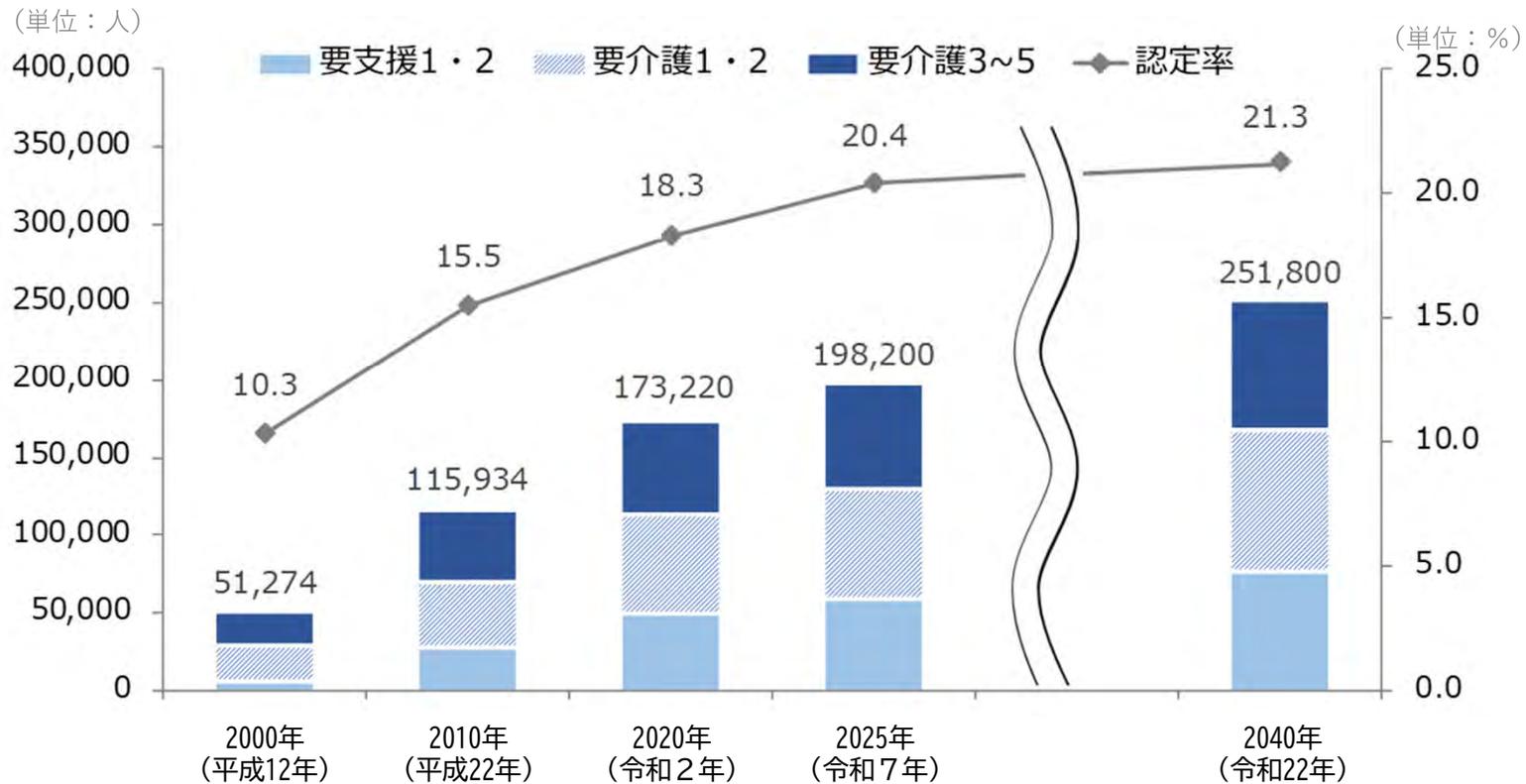
**フレイル**とは  
高齢期に身体とこころの機能が低下し、  
将来介護が必要になる危険性が高まっ  
ている状態。

出典：横浜市健康とくらしの調査（2019年度、2022年度）

## 4 敬老パスの効果と高齢者の状況

### (5) 要支援・要介護認定者の状況

○ 高齢者の増加に伴い要介護認定等を受ける高齢者数は増加し、認定率も上昇する見込み



※認定率は、第1号被保険者数（全体）に占める、第1号被保険者の認定者数の割合

※要支援・要介護認定者数および第1号被保険者数は、令和2年までは実績値、令和7・22年は推計値（各年9月末時点）

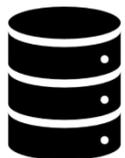
出典：よこはまポジティブエイジング計画

## 5 まとめ（新たな制度の構築に向けて）

- 高齢者の外出促進は、フレイル予防や介護予防にもつながることから、要介護認定者数の増加を抑えることが期待できます。
- 高齢者の皆様に住み慣れた地域で自分らしく元気に過ごしていただくために、より使いやすい仕組みとなるよう、次の視点を踏まえて新たな制度の検討を進めます。
  - ・ より多くの方に御利用いただけるよう利用者負担について検討します。
  - ・ 地域交通への適用を検討します。
  - ・ 一部の利用者による著しい多数回利用があることから、制度の公平性を高めるための対応を検討します。

## 参考資料

### 分析に使用したデータ



システム  
データ

- ・敬老パス交付者データ(過去10年分):約70万件
- ・敬老パス利用データ(令和4年度分(令和4年10月から令和5年9月)  
:約9,670万件
- ・介護保険データ(令和元年から令和5年分):延べ約460万件



調査  
データ等

- ・令和4年度高齢者実態調査データ
- ・将来推計人口データ(中位) 等